

Luxman

BELT DRIVE ANALOG PLAYER

PD-151

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンのアナログプレーヤー PD-151 をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、90 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
お使いの前に	4
各部の名称と用途	6
組立て方法	10
接続方法	14
操作方法	16
ブロックダイアグラム	18
規格	19
修理に出される前に	20
アフターサービスと品質保証について	22

設置する場所

- ・ 外部からの振動を受けにくく、水平で安定した場所を選んでください。
- ・ テレビやカラーモニターの近くに本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

再生中は本機を絶対に動かさない

再生中に本機を動かすと針飛びが起き、再生針やレコード盤を傷つける事があります。

本機を移動する場合

本機を移動する場合は、必ずターンテーブルを停止させレコード盤を取り外してから電源を切ってください。さらに電源ケーブル、フォノケーブルのピンプラグを抜き、ターンテーブル、ターンテーブルシートを外してから移動させてください。

次のような場所は避けてください

- ・ 直射日光のあたる所
- ・ 湿気が多い所や風通しの悪い所
- ・ 極端に暑い所や寒い所
- ・ 振動のある所
- ・ ホコリの多い所
- ・ 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物を乗せないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上のにせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ離して入れてください。

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、機器が結露します。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて1～2時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、使用することが可能になります。

夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露がおこることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

注油について

スピンドルには専用のオイルが使われておりますので、お客様で注油をしないでください。

製品のお手入れについて

- ・ 本体は通常、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取った後、乾いた布で拭いてください。
- ・ アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装が傷むことがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- ・ お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

安全上のご注意

注意



指をはさまれないよう注意

ターンテーブルが回転しているときは、モータープリー部に手を近づけないようご注意ください。特にお子様にはご注意ください。モータープリーとベルトの間に指をはさまれて、けがの原因となることがあります。



本機は重いので、開梱や組立て、持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。

本機の特徴

ベルトドライブ

モーターの振動と回転ムラをベルトの弾性で減衰させ、円滑な回転を得るベルトドライブ方式を採用。

回路構成

モーターのホール素子により回転速度を計測し、短時間で滑らかに設定回転速度に到達するPID制御方式を採用。

高性能基準クロック

速度補正用基準クロックには温度特性の優れたMEMS発振器を使用。

回転数偏差インジケータ

設定した回転数に合った状態で点灯（緑）。それよりも遅い場合は点滅（緑）、早い場合は点滅（青）。

33 / 45 / 78 回転対応

33、45回転に加え、SPレコードの78回転にも対応。

トーンアーム

カートリッジの交換が容易なユニバーサル型スタティックバランス・トーンアームを標準で付属。

重量級ターンテーブル

回転精度を高めるためアルミ地金から削り出した、4.0kg (39N) の重量級ターンテーブル。
慣性モーメントは約 $21.9\text{N} \cdot \text{cm}^2$ を実現。

高剛性シャーシ

10mm厚のアルミ削り出しトップパネルに、外装には厚板の板金を採用。
インシュレーターを取り付けるボトムプレートは、2mm厚の板金を採用し、防振性能を向上。

大型スピンドル

安定した回転をサポートするボールベアリングとポリエーテルエーテルケトン（PEEK）をスラスト軸受けに採用した直径 16mm の大型ステンレス製スピンドル。

ターンテーブルシート

振動吸収ラバーを採用し、レコード盤の振動を防止。

フローティングマウント

トップパネルへ振動の伝わりを遮断するため、電源トランスとモーターを防振ゴムを介して取り付け。

大口径インシュレーター

オーディオラック等、外部からの不要な振動やシャーシの振動を吸収し、熱に変換する防振ゴムを採用。

マグネシウム合金ヘッドシェル

LUXMAN ロゴ入りのマグネシウム合金製ヘッドシェル。

AC インレット

電源ケーブルの脱着が可能な AC インレット。

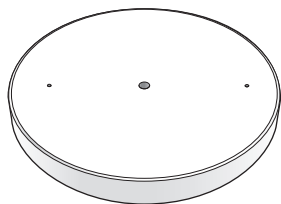
お使いの前に

付属品の確認

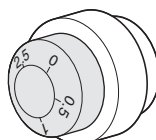
次の付属品が同梱されていることをご確認ください。

※カートリッジは付属していません。

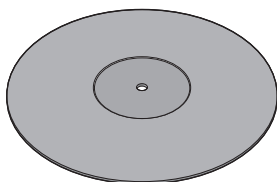
- ・ ターンテーブル



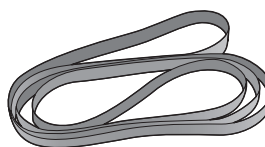
- ・ カウンターウェイト



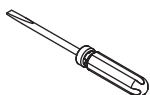
- ・ ターンテーブルシート



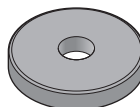
- ・ ゴムベルト



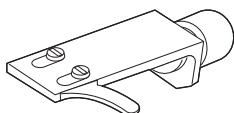
- ・ 回転数調整用ドライバー



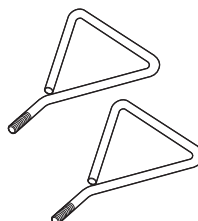
- ・ EP アダプター



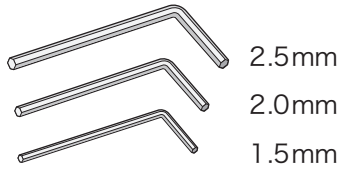
- ・ ヘッドシェル



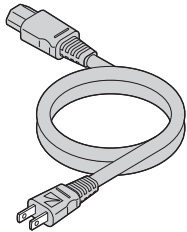
- ・ ターンテーブル取り付けハンドル (2個)



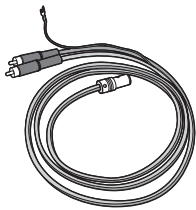
- ・ トーンアーム高さ調整レンチ (2.5mm)
ヘッドシェルシリンダー調整レンチ (2.0mm)
アームリフター高さ / アームレスト高さ調整レンチ (1.5mm)



- ・ 電源ケーブル (JPA-10000)



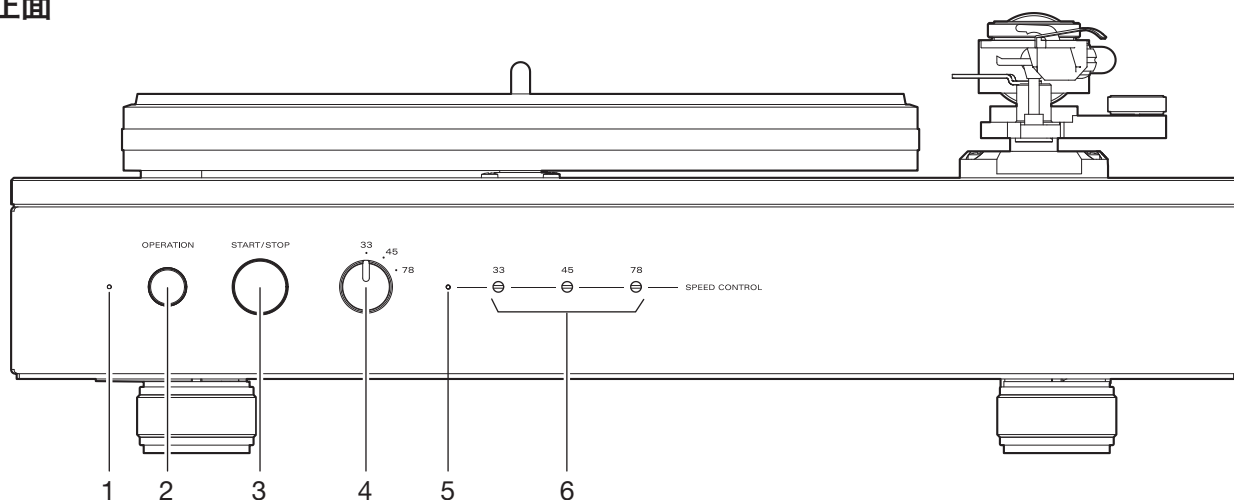
- ・ フォノケーブル (アースコード付き)
※出荷時は本体に接続されています。



- ・ 印刷物
保証書
プレミアム延長保証登録申請書
安全上のご注意
サービス情報
取扱説明書 (本書)

各部の名称と用途

本体正面



1. オペレーション・インジケータ

電源を入れると、このインジケータが点灯します。

2. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

電源をオン / オフするためのスイッチです。

- : ON
- : OFF

3. スタート・ストップスイッチ (START/STOP)

このスイッチを押すと、ターンテーブルが選択された回転数で回転を始めます。
ストップのスイッチを兼ねていますので、回転中に再度押すとターンテーブルが停止します。

4. 回転数切替スイッチ (33 / 45 / 78)

ターンテーブルの回転数を、33 / 45 / 78 回転に切り替えるスイッチです。
お聴きになりたいレコード盤の回転数に合わせて選択してください。

5. 回転数偏差インジケータ

インジケータが点灯 (緑) となるよう回転数微調整ボリュームを合わせてください。

6. 回転数微調整ボリューム

(33 / 45 / 78 SPEED CONTROL)

回転数は工場出荷時に調整されていますが、スタート・ストップスイッチを押して5秒程待っても回転数偏差インジケータが点滅する場合は各ボリュームで次のように調整してください。

33 : 回転数切り替えスイッチを 33 に合わせて、インジケータが点灯 (緑) の状態になるよう調整します。
付属のマイナスインドクタの先端をボリューム軸のマイナス溝に合わせ、マイナス溝に入ってから回し、ボリュームを調整します。

33 回転より回転数が早い時は青で点滅、遅い時は緑で点滅します。

45 : 回転数切り替えスイッチを 45 に合わせて、インジケータが点灯 (緑) の状態になるよう調整します。
付属のマイナスインドクタの先端をボリューム軸のマイナス溝に合わせ、マイナス溝に入ってから回し、ボリュームを調整します。

45 回転より回転数が早い時は青で点滅、遅い時は緑で点滅します。

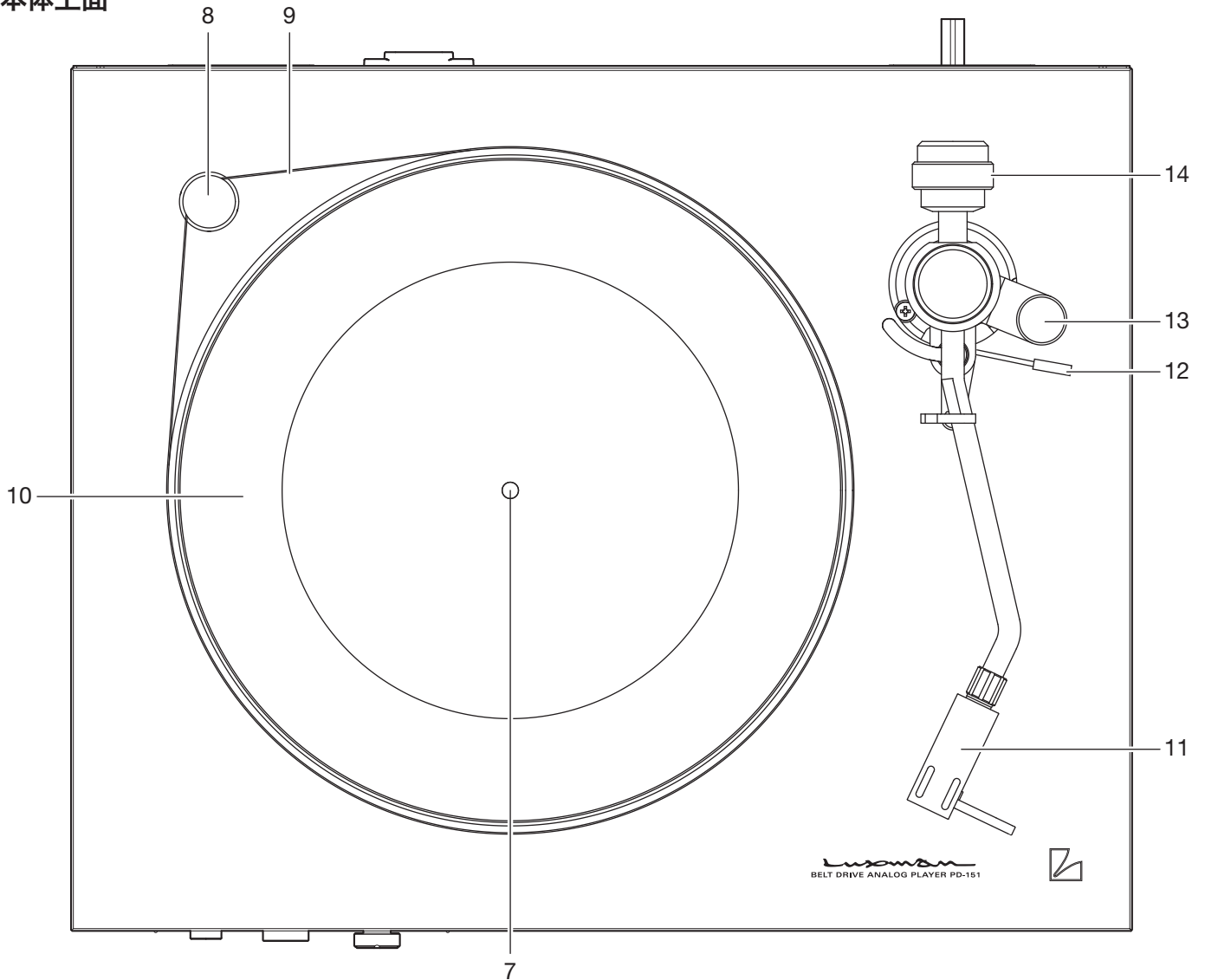
78 : 回転数切り替えスイッチを 78 に合わせて、インジケータが点灯 (緑) の状態になるよう調整します。
付属のマイナスインドクタの先端をボリューム軸のマイナス溝に合わせ、マイナス溝に入ってから回し、ボリュームを調整します。

78 回転より回転数が早い時は青で点滅、遅い時は緑で点滅します。

付属の回転数調整用ドライバーをお使いください。

調整用ドライバーを使用する際は、ドライバーの先端でパネルを傷つけないよう注意してください。

本体上面



7. センター・スピンドル

レコード盤を装着するセンター軸です。
EP 盤を演奏する場合はここに EP アダプター（付属）
を装着してください。

8. モータープーリー

モーターの回転をベルトに伝えます。

9. ベルト

モーターの回転をターンテーブルに伝えます。

10. ターンテーブルシート

ターンテーブルの鳴きを抑え、レコード盤をターンテー
ブルに密着させます。

11. ヘッドシェル

カートリッジをトーンアームに装着します。

12. アームリフター

再生時、カートリッジを上下します。

13. アンチスケーティング調整つまみ

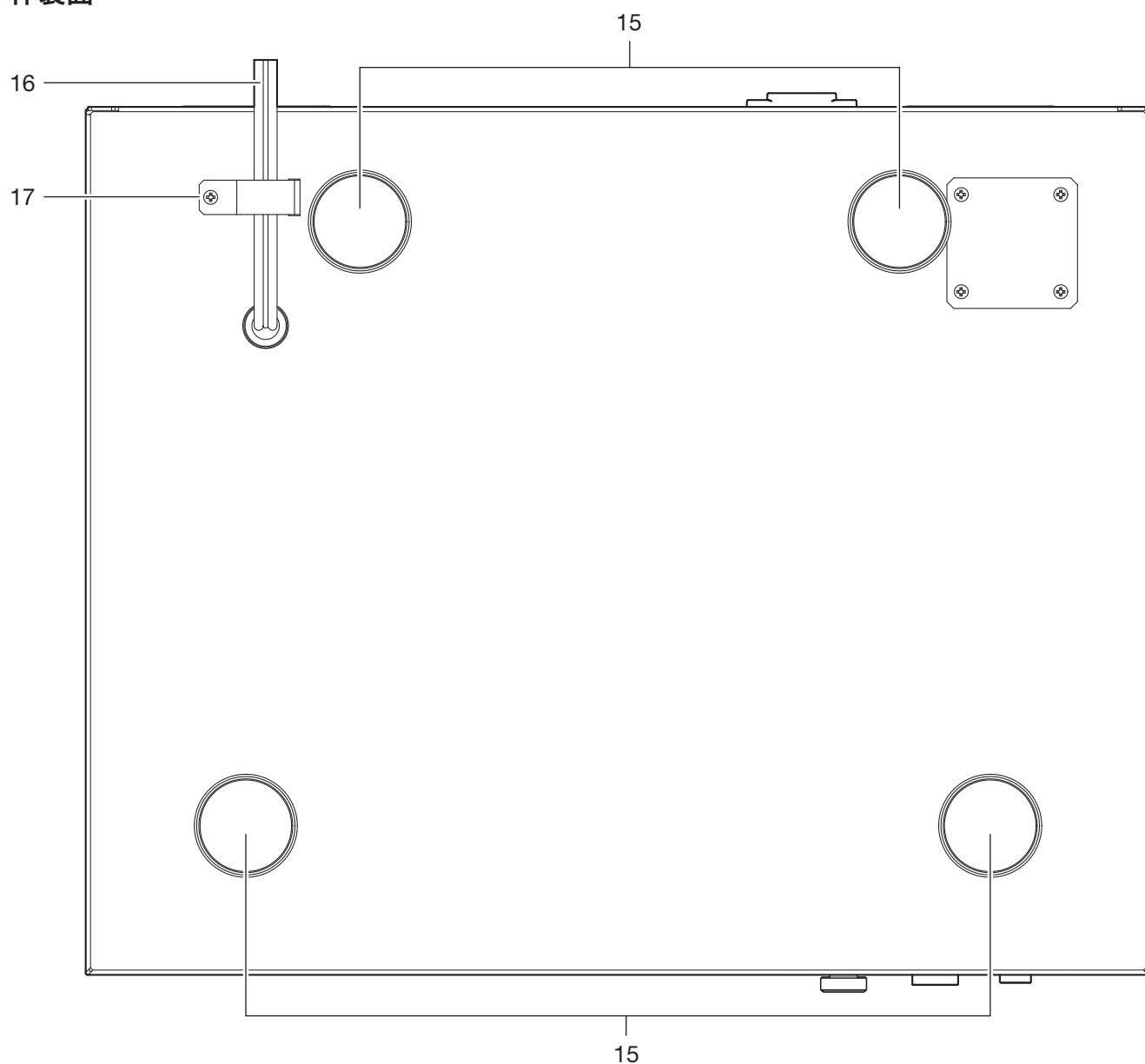
レコードの演奏中にトーンアームにかかる内向力を打
ち消します。
お使いのカートリッジの針圧に合わせて調整してくだ
さい。

14. カウンターウェイト

カートリッジの針圧を調整するおもりです。

各部の名称と用途

本体裏面



15. インシュレーター

プレーヤー全体を支えるとともに、ハウリングや外部からの振動を吸収します。

このインシュレーターは出荷時に一番低く設定されていますが、5mmまで高くする事が可能です。

本機を水平にする時にお使いください。

17. ケーブルホルダー

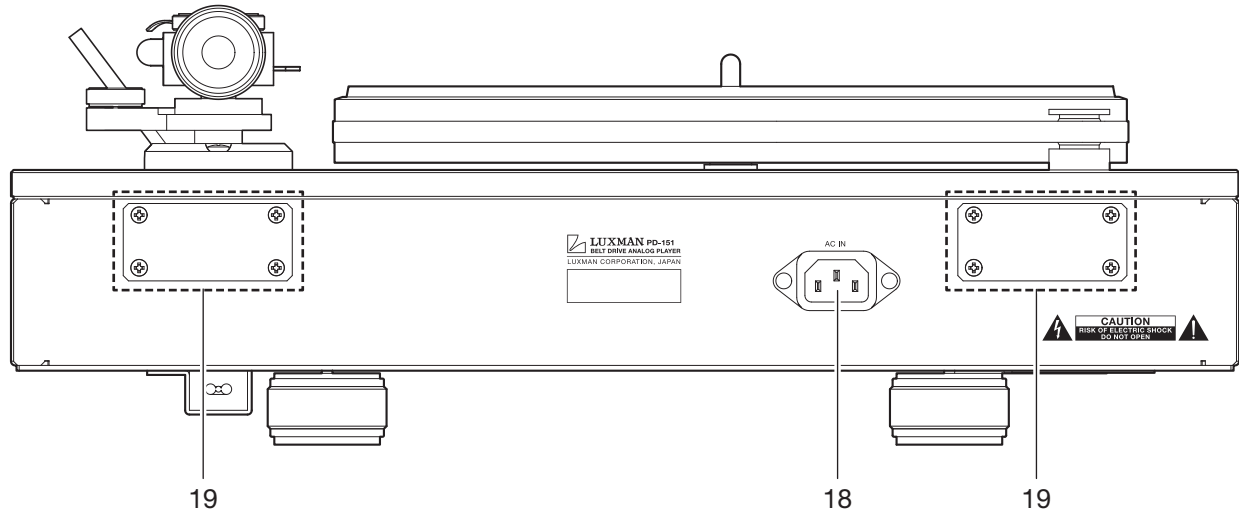
フォノケーブルを固定します。

16. フォノケーブル

トーンアームのDIN5Pコネクタにフォノケーブルが接続されています。

(出荷時、フォノケーブルは本体と接続済みです。)

本体背面



18.AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブル (JPA-10000) を接続して、壁のコンセントから電源を供給します。

19. ヒンジ受け金具取り付け部

別売りのダストカバー (OPPD-DSC151) の取り付け部です。

ヒンジ受け金具を取り付けるためのネジを取り付けてあります。

ダストカバーを使用しないときでもネジは取り外さずそのままにしてください。

組立て方法

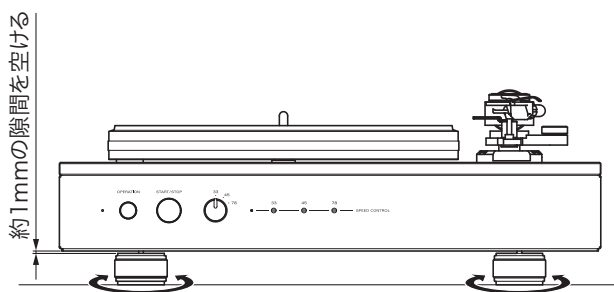
組立てが完了するまで、本機の電源を入れないでください。

1. 本体を設置する

なるべく水平なラックに設置してください。

傾きがある場合は裏面4ヶ所のインシュレーターを回転させ、プレーヤー全体の水平バランスを調整してください。水平を調整する時は、1mm程ボトムとの間に隙間を設けてから調整してください。

調整後、ボトムとインシュレーター間に隙間があることを確認してください。この隙間は、インシュレーターの効果を上げ、再生音質向上に効果があります。



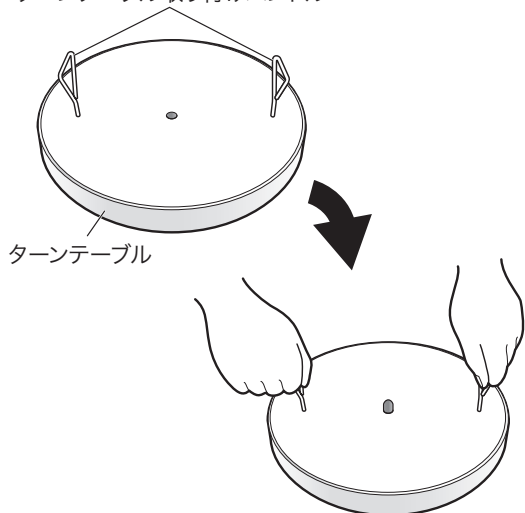
左回りで上昇、右回りで下降します。

2. ターンテーブルをのせる

付属のターンテーブル取り付けハンドルをターンテーブル上部に装着し、それを持って本体のセンタースピンドルに乗せます。

ターンテーブルは必ず両手で持ち、センタースピンドルに無理な負荷がかからないように注意しながら取り付けてください。取り付け後は、取り付けハンドルを外し保管してください。

ターンテーブル取り付けハンドル

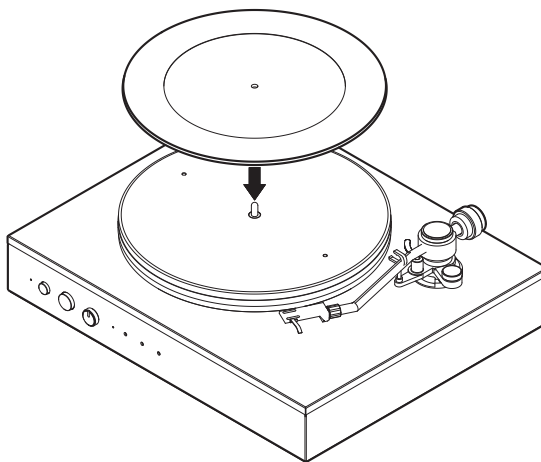


ターンテーブルは重いので、取り扱いには充分にご注意ください。

3. ターンテーブルシートの装着

中央にへこみのある面が表です。

センタースピンドルに合わせて取り付けてください。



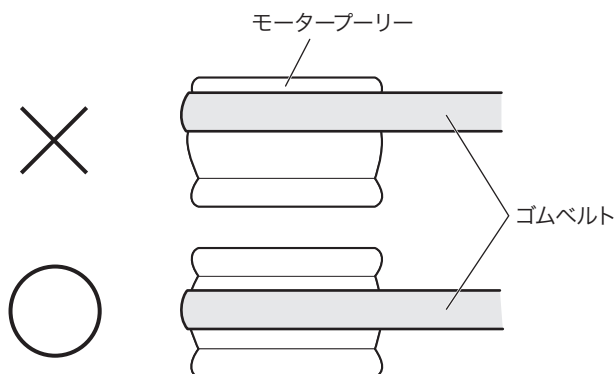
ターンテーブルシートを装着すると、中央部が浮く場合があります。

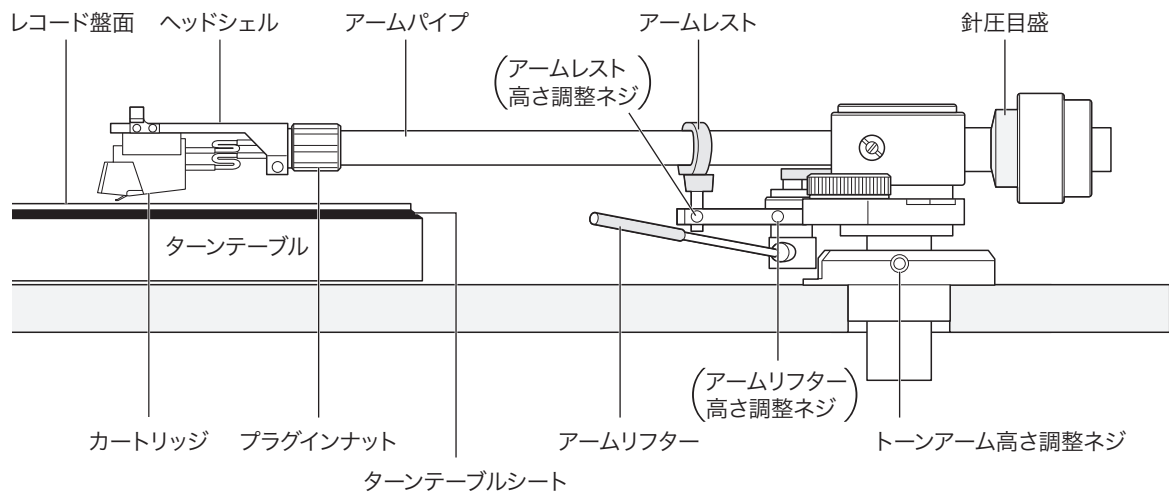
浮いた時は指で押し、ターンテーブルに密着させてください。

4. ベルトをかける

はじめはターンテーブルにかけてください。その後にターンテーブルからベルトをつまんでプーリーにかけます。

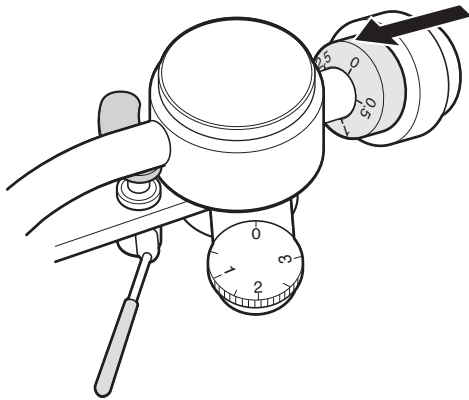
手でターンテーブルを数回まわし、ベルトがプーリーの正しい位置にかかっていることを確認してください。





5. カウンターウェイトの取り付け

カウンターウェイトの針圧目盛を前方に向け、トーンアームの後方にカチッと止まる位置まで差し込んでください。

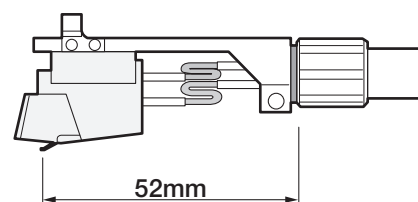


6. ヘッドシェルにカートリッジを取り付ける

本機にカートリッジは付属していません。お手持ちのカートリッジをヘッドシェルに取り付けてください。リードワイヤー（下表参照）をカートリッジに接続し、カートリッジに付属しているビスとナットで、本機のヘッドシェルにしっかりと取り付けてください。ゆるんでいるとハム音の原因になることがあります。接続する端子につきましては、お手持ちのカートリッジの取扱説明書をご覧ください。

白	Lch +
青	Lch -
赤	Rch +
緑	Rch -

ヘッドシェルとトーンアームの取り付け面から針先までが52mmとなるようにカートリッジを取り付けます。ヘッドシェルの側面にそってカートリッジが平行になるよう、まっすぐに固定してください。

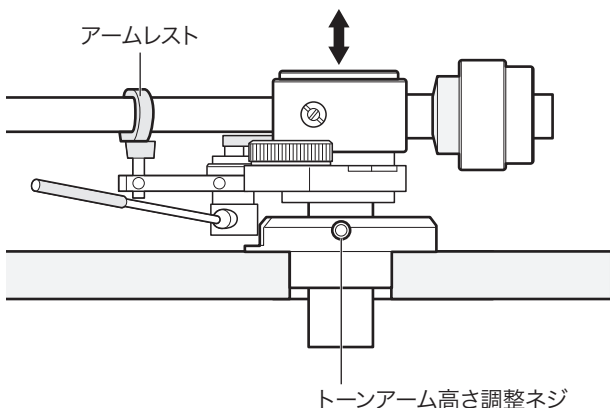


なお、本機に搭載しているトーンアームのオーバーハングは15mmです。

組立て方法

7. トーンアームの高さ調整

トーンアームの高さを変えることで、レコード盘面とアームパイプが平行になるよう調整します。アームベースにあるネジをトーンアーム調整レンチでゆるめて上下に動かし、適正な位置でネジをしめて固定します。



トーンアームはアームベースのネジだけで固定しています。ネジをゆるめる場合は必ずトーンアームをアームレストに収納し、全体を手でささえて落下を防止してください。

8. アームリフターの高さ調整

アームリフターを上げ、針先とレコード盤の隙間が5～10mmになるようにアームリフター調整レンチでアームリフターの高さ調整ネジをゆるめリフターの位置を調整します。調整後、リフターを下げ、針先がレコード盤に当たることを確認し、高さ調整ネジを締めて固定してください。

針先がレコード盤に当たると同時にリフターとアームパイプの間に隙間があることを確認してください。

9. 水平バランスの調整

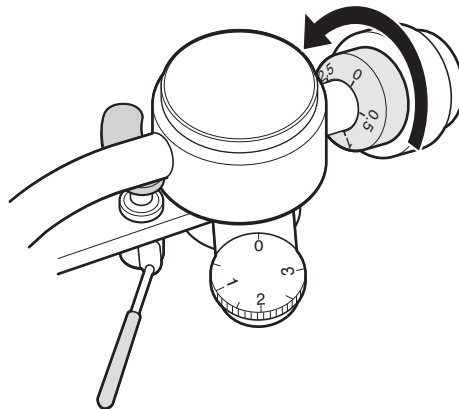
アンチスケーティング調整つまみを0に合わせた状態からトーンアームをアームレストより外し、フリーの状態にします。カウンターウェイトをまわすと前後しますので、トーンアームの水平バランスが取れるように細かく調整してください。

カートリッジの針先はとてもデリケートです。無理な力がかからないよう充分にご注意ください。

10. 針圧調整

トーンアームの水平バランスが取れた状態でカウンターウェイトが動かないように注意しながら、針圧目盛を0に合わせてください。

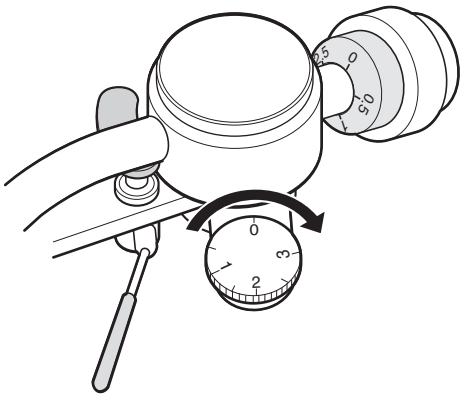
次に下図の方向へまわして、必要な針圧値に設定してください。最適値はお手持ちのカートリッジの取扱説明書をご覧ください。本機は自重4～12gのカートリッジが適しています。重量級カートリッジにはオプション（別売）のヘビーウェイトをご使用ください。



針圧目盛はカウンターウェイトに固定されておらず、自由に回転するようになっています。

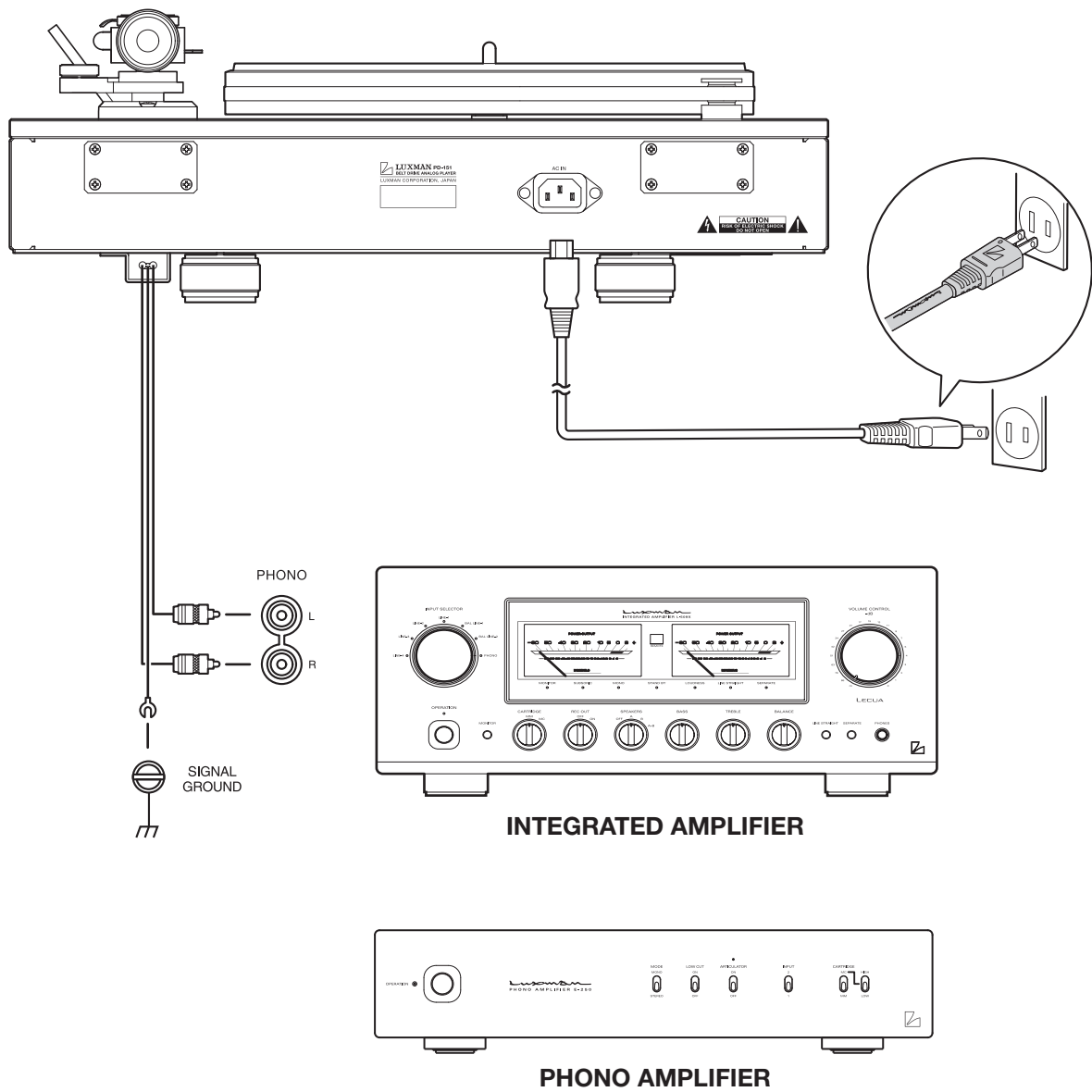
11. アンチスケーティングの調整

アンチスケーティング調整つまみをまわして、お使いのカートリッジの針圧に適した値にセットしてください。



アンチスケーティングは、インサイドフォースキャンセラーとも呼ばれます。

接続方法



接続する前に

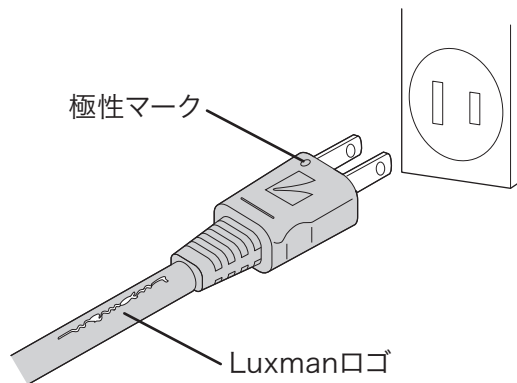
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源と併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。プラグにある極性マークがコンセントに向かって左側にあるように（ケーブルの Luxman ロゴが見えるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



フォノイコライザーアンプやプリメインアンプへの接続

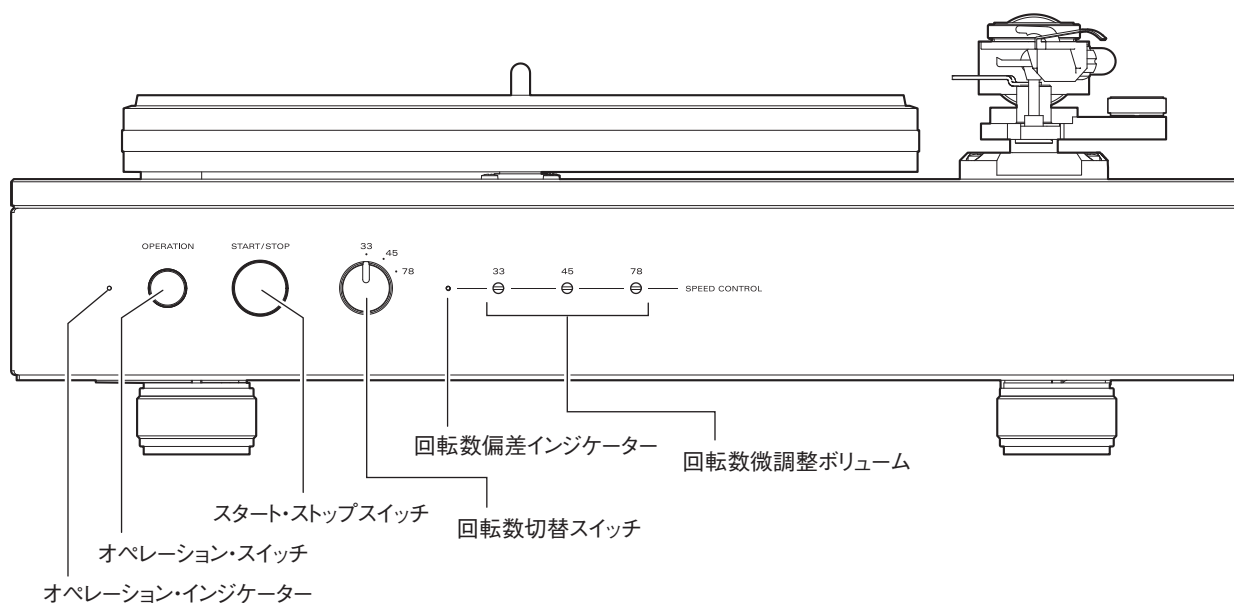
フォノケーブルのピンプラグをフォノイコライザーアンプやプリメインアンプの PHONO 端子に接続します。ピンプラグの白を Lch、赤を Rch に接続してください。

アース用コードの接続

併用するフォノイコライザーアンプやプリメインアンプのシグナルグラウンド端子に接続してください。

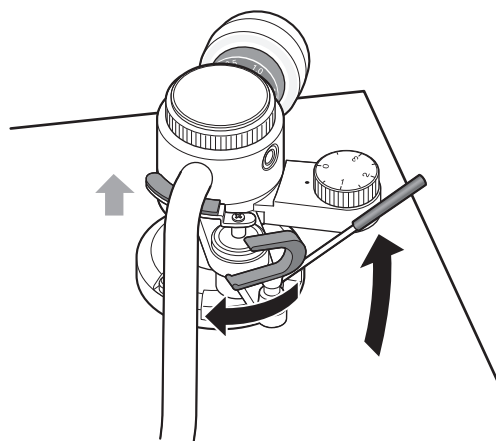
接続しないと音楽信号にハムノイズが乗ることがあります。

操作方法

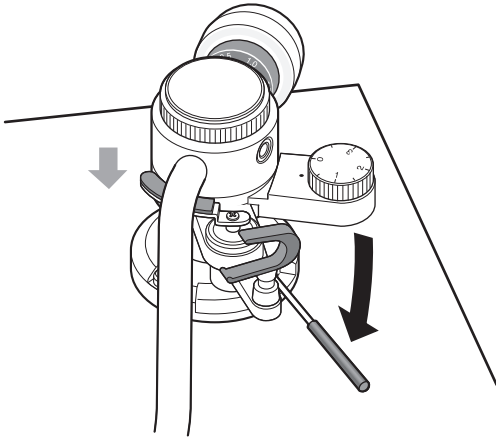


再生方法

1. オペレーション・スイッチ (OPERATION) を押しオンにするとオペレーション・インジケータが青色に点灯します。
2. レコード盤をセンタースピンドルに合わせターンテーブルに装着します。
EP 盤は EP アダプターを使用して装着します。
3. レコード盤に合わせて回転数切替スイッチで回転数 (33/45/78) をセットしてスタート・ストップスイッチを押すとターンテーブルが回転します。
4. 数秒後に回転数偏差インジケータが点灯します。
点滅をしている場合は、回転数を微調整してください。
(6 ページ参照)
5. アームリフターを上げ、トーンアームをアームレストから外し、再生させたい位置まで移動させます。



6. アームリフターを下げるとトーンアームが下がり、再生が始まります。



針先がレコード盤に接地してからアンプのボリュームを上げてください。ボリュームが上がったままで針先がレコード盤に接地するとスピーカーより大きな音が出る場合があります。

7. 再生が終了したらアームリフターを上げ、トーンアームをアームレストに戻し、スタート・ストップスイッチを押してターンテーブルを停止させます。

針先の破損やレコード盤の傷を防ぐため、トーンアームの上げ下げには必ずアームリフターをお使いください。

安全上のご注意

⚠ 注意



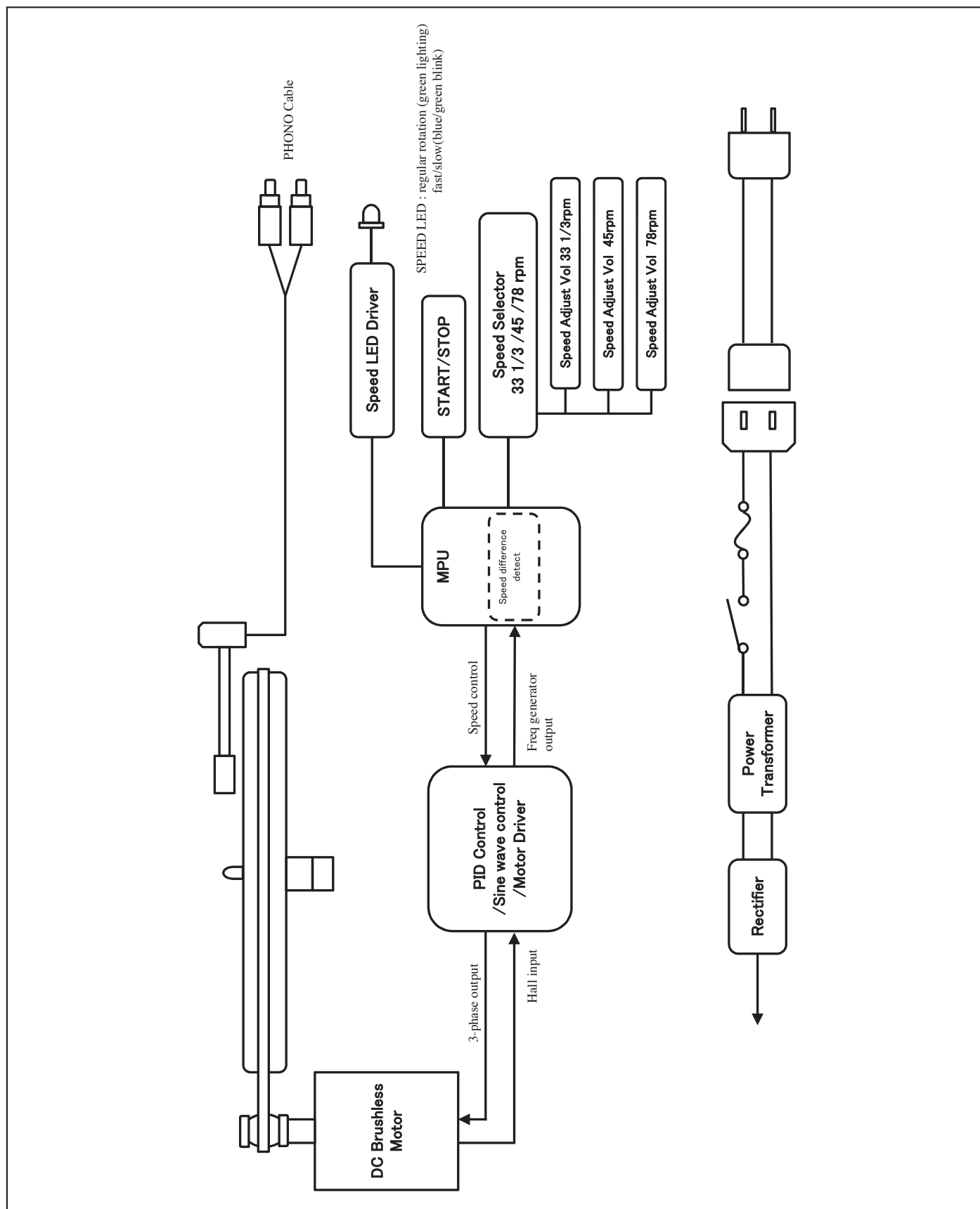
指をはさまれないよう注意

ターンテーブルが回転しているときは、モータープリー部に手を近づけないようご注意ください。特にお子様にはご注意ください。モータープリーとベルトの間に指をはさまれて、けがの原因となることがあります。



本機は重いので、開梱や組立て、持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。

ブロックダイアグラム



フォノモーター部	
駆動方式	ベルトドライブ方式
モーター	PID 制御 DC ブラシレスモーター
ターンテーブル	30cm アルミ材削り出し (重量 4.0kg)
回転数	33 1/3rpm、45rpm、78rpm (3 スピード切替)
回転数調整範囲	± 6% (各回転数独立調整可能)
ワウ・フラッター	0.04% (W.R.M.S) 以下
トーンアーム部	
形式	スタティックバランス、S 字型
全長	229mm
トラッキングエラー角	+1.9° ~ -1.1°
オーバーハンダ	15mm
適合カートリッジ自重	4g ~ 12g ※ヘビーウェイト使用時 22g ~ 32g (別売品)
高さ調整範囲	38 ~ 60mm
アンチ・スケーティング	0 ~ 3g
付属装置ほか	
付属装置	<p>[フロントパネル部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペレーション・スイッチ ・回転数切替スイッチ ・回転数微調整ボリューム (33 回転、45 回転、78 回転) ・スタート・ストップスイッチ ・回転数偏差インジケーター <p>[リアパネル部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AC インレット <p>[ボトム部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシュレーター ・フォノケーブル
付属品	<ul style="list-style-type: none"> ・ターンテーブル ・ヘッドシェル ・ターンテーブルシート ・カウンターウェイト ・トーンアーム高さ調整レンチ (2.5mm) ・ヘッドシェルシリンダー調整レンチ (2.0mm) ・アームリフター高さ/アームレスト高さ調整レンチ (1.5mm) ・回転数調整用ドライバー ・取扱説明書 (本書) ・プレミアム延長保証登録申請書 ・電源ケーブル (JPA-10000) ・ゴムベルト ・フォノケーブル (本体に取付) ・ターンテーブル取り付けハンドル (2 個) ・EP アダプター ・保証書 ・安全上のご注意
電源	AC100V (50/60Hz)
消費電力	5W (電気用品安全法の規定による)
重量	15.7kg
外形寸法	465 (W) × 132.5 (ターンテーブル上面まで) (H) × 393 (D) mm
許容動作温度 / 湿度	-5℃ ~ + 35℃ / 5% ~ 85% (結露のないこと)

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひとつお確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくても点検代、出張費などをいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策	参照ページ
オペレーション・スイッチを押しても電源が入らない	・電源プラグが本体の AC インレットや家庭用コンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグを確実に差し込む。	15
ターンテーブルが回転しない	・ベルトが正しくかかっていない。	・ベルトを正しくかける。	10
	・オペレーション・スイッチがオンになっていない。	・オペレーション・スイッチをオンにする。	16
	・スタート・ストップスイッチが押されていない。	・スタート・ストップスイッチを押す。	16
インジケーターが点滅する	・回転数調整が取れていない。	・回転数微調整ボリュームで正しく調整する。	6
音が出ない	・リードワイヤーとカートリッジ、またはヘッドシェルとトーンアームの接続が不完全。	・リードワイヤーを確実に差し込む。プラグインナットをしめてヘッドシェルとアームをしっかり固定する。	11
	・フォノケーブルが正しく接続されていない。	・フォノケーブルのピンプラグを正しく接続する。	14 ~ 15
	・フォノイコライザーアンプやプリメインアンプなどの設定や接続が正しくない。	・機器間の接続、フォノイコライザーアンプやプリメインアンプなどの電源、ボリューム位置、セレクターの設定などを確認する。	
音量が小さい、または大きい	・フォノイコライザーアンプやプリメインアンプなどのカートリッジ設定が正しくない。	・フォノイコライザーアンプやプリメインアンプなどのカートリッジ設定をお手持ちのカートリッジの種類 (MC/MM) に合わせる。	
音像がふらつく、左右のバランスが悪い	・プレーヤー本体が傾いている。	・本機を水平で安定した場所に設置する。インシュレーターをまわして調節する。	8、10
	・アンチスケーティングの調整が正しくない。	・アンチスケーティングを正しく調整する。	13
	・カートリッジが水平に取り付けられていない。	・水平バランスを調整する。	12

症 状	原 因	対 策	参照ページ
演奏スピードが正しくない	<ul style="list-style-type: none"> ・回転数が正しく調整されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レコード盤に合わせ回転数を選び、回転数微調整ボリュームで正しく調整する。 	6
ハムノイズ（ブーン音）が出る	<ul style="list-style-type: none"> ・アース線が接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アース線をGND端子に接続する。 	14～15
	<ul style="list-style-type: none"> ・フォノケーブルが正しく接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォノケーブルを正しく接続する。 	8、14～15
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドシェルとカートリッジが正しく固定されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドシェルとカートリッジをビスとナットで正しく固定する。 	11
音とびする、ノイズ（ポツポツまたはバチバチ音）が乗る	<ul style="list-style-type: none"> ・針圧が正しく調整されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お手持ちのカートリッジに合わせて針圧目盛を適正值に設定する。 	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・レコード盤に傷や反り、汚れがある。静電気を帯びている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傷や反りのあるレコード盤の使用を避ける。 レコード盤を市販のクリーナーなどでクリーニングする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・針先に汚れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・針先の汚れを取る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・振動のある場所に設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの振動により音とびすることがあるため、本機を水平で安定した場所に設置する。 	

静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。

このようなときは、電源ケーブルを一度抜いて再び差し込むことで正常動作になる場合があります。

これで解決しないときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターにご相談ください。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはご購入店までご連絡ください。状況に応じた修理をさせていただきます。

本機の保証期間はご購入日より起算して標準2年間、または、プレミアム延長保証適用の場合、3年間です。標準2年間の保証書およびプレミアム延長保証登録申請書は本機のパッキングケース内に入っています。

プレミアム延長保証適用条件

弊社正規取扱店での購入証明（領収書やレシートの複写）を貼り付けたプレミアム延長保証登録申請書を弊社宛てにご返送ください。
※正規取扱店につきましては、弊社ホームページをご覧ください。弊社営業部までお問い合わせください。

- プレミアム延長保証制度では、製品に同梱される保証書による標準2年間の保証に加え、下記に分類する製品の種類により、保証期間を延長いたします。保証期間につきましては、後日お届けいたします「クラブ・ラックスマン」カードに記載されます。「クラブ・ラックスマン」カードはプレミアム延長保証適用の保証書となります。
- 製品別プレミアム延長保証期間
プラス5年（計7年間保証）：トランジスターアンプ、D/Aコンバーター
プラス1年（計3年間保証）：真空管アンプ、CD/SACDプレーヤー、アナログプレーヤー
（現保証期間が5年間の製品は7年間、真空管等の消耗品は1年間となります。）
- プレミアム延長保証が適用とならない場合は、標準の2年間保証となり、修理の際は、製品に同梱される保証書と購入証明が必要となりますので、大切に保管してください。プレミアム延長保証が適用とならない場合は以下のとおりです。
 - ・ご購入店が弊社正規取扱店でない場合
 - ・「プレミアム延長保証登録申請書」のご送付が無い場合
 - ・弊社正規取扱店の購入証明が無い場合
 - ・購入証明の日付が弊社出荷日と著しく異なる場合（プレミアム延長保証登録をせず転売された場合等）

保証規約

製品は厳密な品質管理及び検査を経て出荷されておりますが、万一の自然故障の際には、ご購入店もしくは弊社サービスセンターまでお問い合わせください。保証の条件は以下記載のとおりです。

- 万一の自然故障につきましてはご購入日より保証書または「クラブ・ラックスマン」カード表面記載の保証期間無償修理いたします。（ただし真空管等の消耗品は1年間）
- 保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合、また保証期間外の修理の場合は有償にて承ります。
- 保証期間内であっても次の様な場合は保証対象外となり、修理は有償にて承ります。
 - ・保証書およびご購入日を証明する領収書等または「クラブ・ラックスマン」カードのご提示がない場合
 - ・使用上の誤り、改造、業務目的または海外でのご使用による故障、損傷
 - ・本製品以外（電源等）の原因による故障
 - ・火災、地震、水害、落雷およびその他の天変地変等による故障または損傷
 - ・オーバーホールおよび動作チェック等の点検作業
- 修理料金につきましては、予告なく変更することがあります。
- 本保証書および保証制度は日本国内のみ有効であり、海外でのご使用時には適用されませんので、ご注意ください。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書および「クラブ・ラックスマン」カードの紛失、盗難等による再発行は、原則としていたしませんので、大切に保管してください。また、保証書およびカードの不正な使用、改造の場合、保証効力が失効する場合がありますのでご注意ください。
- 修理品につきましては、ご購入店にご相談いただくか、直接弊社宛てにご送付ください。製品の梱包箱等はできるだけ保管いただきますようお願いいたします。
- プレミアム延長保証期間中の修理品輸送費につきましてはお客様負担となります。
- 修理品をご送付いただく場合は、輸送中の破損等の事故が無いようにご注意ください。弊社では輸送中の事故につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。

